

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 075

(2024/25年度 USDA米国農務省 10月11日発表)

① 24/25年度穀物生産予想は北半球/南半球とも相変わらず総じて順調、その結果穀物市場価格は低位安定

主要穀物の2024/25年度の穀物生産状況は、北半球では小麦はほぼ収穫を終え、コーン/大豆は成熟期から収穫期を迎えている。一方、南半球では23/24年度収穫はほぼ終了し、24/25年度作物の播種期を迎えている段階である。全体の生産状況は今まで述べてきた通り国別地域別のバラつきはあるが総じて順調であり、世界穀物生産量（大豆除く）は28.3億ト、大豆は4.3億ト、合計32.6億トと昨年に引き続き史上最高を更新する見通しである。また、市場価格も下記に示した通り長期に見れば低位安定で推移している。

② しかし、エルニーニョ現象に大きく左右される豪州/アルゼンチンやカナダの穀物生産動向には要注意！

今年度の穀物生産状況は上記の通りであるが、世界の穀物生産と価格は米国/ブラジル等の大国の動向によって大きく左右されると同時に、エルニーニョ現象により年度ごと生産が極端に変動する豪州/アルゼンチンの気候状況には注意が必要である。特に豪州はその変動幅が大きい。今年度は32億トの見通しであるが、過去12年の小麦生産量は平均27億ト、22/23年度最大生産量41億トに対し、異常早魃に見舞われた19/20年度は14億トまで激減！これは過去12年平均の約半分、最大年の1/3の数値であり市場にも大きな影響を与えた。豪州では過去12年で小麦生産量20億ト前後or以下が4回と凡そ3年に一度不作に見舞われている。アルゼンチンでも同様に、今年度大豆生産見通しは51億トまで回復したが22/23年度は早魃の為25億ト迄落ち込み大打撃を受けている。

エルニーニョ現象による早魃とは違い気候変動の影響が大きいのが北緯50度近辺の平原州に生産地が広がるカナダである。カナダの今年度小麦生産量見通しは35億ト/過去12年の平均は31億トであるが、21/22年度早魃時は22億トと12年平均より約1千万ト近く激減。この年は菜種/コーンも含めて大減産となった為、これらの有数の輸入国である日本も大きな影響を受けることとなった。

③ また、ヨーロッパではEU南東部（ルーマニア/ハンガリー等）の生産変動幅が大きいものにも要注意！

EUの穀物生産は主産地であるフランス/ドイツ/スペインを中心に小麦は1.3億ト/コーンは0.6億ト前後で推移しているが、今年度はEU南東部（ルーマニア/ハンガリー等）においては降水量不足の為水分を多く要求するコーン生産量見通しが大きく減少している。特に、灌漑設備も十分でないバルカン半島に位置するルーマニアでは9月生産量見通しが780万トと前月より90万ト減少、同様にハンガリーも520万トと70万ト減少しEU全体では当初見通し65億ト⇒59億トまで大きく減少する要因となっている。このように、人為の及ばない気候変動は常に農業生産の最大リスクであり、近年の多発する早魃/水害等世界的な動向から目を離すことが出来ない。

1. 世界穀物需給の概要（大豆除く）

① 生産量:	2,825百万ト (前年比0.4%)	増↑、前月比0.1%	減↓)
② 消費量:	2,841百万ト (前年比1.0%)	増↑、前月比0.0%	⇒)
③ 貿易量:	503百万ト (前年比2.4%)	減↓、前月比0.1%	増↑)

2. 小麦

① 生産量:	794百万ト (前年比0.5%)	増↑、前月比0.4%	減↓)
② 消費量:	803百万ト (前年比0.6%)	増↑、前月比0.3%	減↓)
③ 輸出量:	216百万ト (前年比2.5%)	減↓、前月比0.3%	減↓)
④ 在庫量:	258百万ト (前年比3.2%)	減↓、前月比0.2%	増↑) / (在庫率32%) うち中国135百万ト、占有率52%
⑤ 価格:	\$5.90/Bu (前年\$5.68/Bu / 前月\$5.53/Bu)	と前月比\$0.37 上昇。	
⑥ 概況:	世界生産量は、EU/ロシア/インド等が前月より減少したが豪州/カナダ等の増産により史上最高見通し。消費量8億ト/輸出量2億ト台とほぼ前月水準を維持。期末在庫は消費が生産を上回った為前年比若干減。結果、価格は\$5台後半まで上昇。		

3. とうもろこし

① 生産量:	1,217百万ト (前年比0.7%)	減↓、前月比0.1%	減↓)
② 消費量:	1,223百万ト (前年比0.5%)	増↑、前月比0.3%	増↑)
③ 輸出量:	191百万ト (前年比2.7%)	減↓、前月比0.5%	減↓)
④ 在庫量:	307百万ト (前年比2.0%)	減↓、前月比0.6%	減↓) / (在庫率25%) うち中国209百万ト、占有率68%
⑤ 価格:	\$4.25/Bu (前年\$4.92/Bu / 前月\$3.84/Bu)	と前月比\$0.41 上昇。	
⑥ 概況:	世界生産量は、米国で単収増の為若干増加したがUKR/ロシア等で減産となり前月/前年比とも下方修正。一方、消費量は底堅く12億ト台を維持し生産量を上回る、輸出量は前年比UKR/ロシア/ブラジル等が減少し1.9億トレベル。期末在庫は前年比約5百万ト減の約3億ト/在庫率約25%。その結果、低迷していた価格は前月比\$0.4上昇し、\$4台を回復した。		

4. 大豆

① 生産量:	429百万ト (前年比8.7%)	増↑、前月比0.1%	減↓)
② 消費量:	403百万ト (前年比4.9%)	増↑、前月比0.1%	減↓)
③ 輸出量:	182百万ト (前年比2.6%)	増↑、前月比0.1%	減↓)
④ 在庫量:	135百万ト (前年比19.8%)	増↑、前月比0.1%	増↑) / (在庫率33%) うちBRA34/ARG29百万ト
⑤ 価格:	\$10.38/Bu (前年\$12.66/Bu / 前月\$9.89/Bu)	と前月比\$0.49 上昇。	
⑥ 概況:	大豆生産量は増産の勢いを維持し4.3億トと前年比約9%の大幅増。消費量は生産量を下回るが前年比5%増の約4億トまで拡大。輸出量は中国輸入量が単独で1億トを超え全体で1.8億トを超える見通しである。ただ生産量が消費量を大きく超えている為期末在庫量は1.3億トと前年比約20%増加。市場価格は南米での早魃懸念もあり\$10台を回復した。		

世界の穀物・大豆等の需給

2024年10月11日
米国農務省発表： 単位100万トン

主要穀物世界の需給								
		生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量		
全穀物	2022/23	2,758	3,557	497	2,768	789		
	2023/24	2,813	3,602	515	2,813	789		
	2024/25	9月	2,827	3,609	502	2,840	768	
	2024/25	10月	2,825	3,614	503	2,841	772	
小麦	2022/23	789	1,063	222	789	274		
	2023/24	790	1,064	221	798	266		
	2024/25	9月	797	1,062	217	805	257	
	2024/25	10月	794	1,060	216	803	258	
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2022/23	1,453	1,794	220	1,459	336		
	2023/24	1,501	1,837	239	1,494	343		
	2024/25	9月	1,502	1,842	231	1,508	334	
	2024/25	10月	1,500	1,843	230	1,511	332	
米	2022/23	516	700	55	520	180		
	2023/24	522	701	54	521	180		
	2024/25	9月	527	705	54	527	177	
	2024/25	10月	530	710	56	528	182	
大豆	2022/23	379	471	172	370	101		
	2023/24	395	496	177	383	112		
	2024/25	9月	429	541	182	403	138	
	2024/25	10月	429	541	182	403	139	

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	309.63	1,218.57	185.40	1,219.85	191.37	308.35
	10月	312.65	1,217.19	183.84	1,223.32	190.50	306.52
アメリカ	9月	46.02	385.73	0.64	321.71	58.42	52.26
	10月	44.72	386.18	0.64	321.71	59.06	50.77
アルゼンチン	9月	1.54	51.00	0.01	14.80	36.00	1.74
	10月	4.09	51.00	0.01	16.30	36.00	2.79
ブラジル	9月	4.84	127.00	1.50	81.50	49.00	2.84
	10月	5.84	127.00	1.50	82.50	49.00	2.84
EU	9月	7.48	59.00	19.00	75.30	3.30	6.88
	10月	7.48	59.00	19.00	75.30	3.30	6.88
日本	9月	1.31	0.02	15.50	15.55	0.00	1.27
	10月	1.31	0.02	15.50	15.55	0.00	1.28
中国	9月	211.36	292.00	21.00	313.00	0.02	211.34
	10月	211.36	292.00	19.00	313.00	0.02	209.34
ロシア	9月	0.76	13.50	0.05	10.20	3.80	0.31
	10月	0.76	13.00	0.05	10.20	3.30	0.31
ウクライナ	9月	1.56	27.20	0.02	4.05	24.00	0.73
	10月	1.46	26.20	0.02	4.05	23.00	0.63

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	112.25	429.20	177.74	402.98	181.63	134.58
	10月	112.37	428.92	177.61	402.72	181.53	134.65
アメリカ	9月	9.26	124.81	0.41	69.16	50.35	14.97
	10月	9.31	124.70	0.41	69.10	50.35	14.97
アルゼンチン	9月	24.35	51.00	6.00	47.60	4.50	29.25
	10月	24.45	51.00	6.00	47.60	4.50	29.35
ブラジル	9月	27.87	169.00	0.15	58.10	105.00	33.92
	10月	27.96	169.00	0.15	58.10	105.00	34.01
中国	9月	42.88	20.70	109.00	126.80	0.10	45.68
	10月	43.31	20.70	109.00	126.90	0.10	46.01
EU	9月	1.37	2.88	14.60	17.02	0.30	1.52
	10月	1.37	2.90	14.60	17.02	0.30	1.55

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	9月	265.25	796.88	210.27	804.90	216.51	257.22
	10月	266.18	794.08	210.77	802.54	215.82	257.72
アメリカ	9月	19.11	53.93	2.86	30.92	22.45	22.53
	10月	18.95	53.65	3.13	31.19	22.45	22.09
アルゼンチン	9月	4.57	18.00	0.01	7.05	11.50	4.03
	10月	4.57	18.00	0.01	7.05	11.50	4.03
オーストラリア	9月	3.05	32.00	0.20	7.50	25.00	2.75
	10月	3.05	32.00	0.20	7.50	25.00	2.75
カナダ	9月	4.58	35.00	0.55	9.60	26.00	4.53
	10月	4.58	35.00	0.55	9.60	26.00	4.53
EU	9月	14.66	124.00	11.50	108.75	31.50	9.91
	10月	14.66	123.00	11.50	108.75	30.00	10.41
中国	9月	134.50	140.00	12.00	151.00	1.00	134.50
	10月	134.50	140.00	12.00	151.00	1.00	134.50
インド	9月	7.50	114.00	0.30	113.00	0.30	8.50
	10月	7.50	113.29	0.30	112.29	0.30	8.50
ロシア	9月	10.19	83.00	0.30	38.75	48.00	6.74
	10月	11.69	82.00	0.30	38.75	48.00	7.24
ウクライナ	9月	0.71	22.30	0.08	7.00	15.00	1.09
	10月	0.71	22.90	0.08	6.70	16.00	0.99

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

世界の穀物輸出を牽引する大豆生産の拡大と油脂需要の動向(5)

① 先月号では、年間搾油量2.2億ト(内パーム油0.8/大豆0.6億ト)という数量まで拡大した「油脂」生産の現状と搾油原料として利用される油糧種子輸出货量約2億ト(内大豆1.7億ト)/パーム油輸出货量0.5億トという世界を見たが、今回は下記に図表で記載しているその世界を席捲する「世界の巨大油脂関連企業」について見てみたい。

② 下記業界図には合計7社が掲載されているが、これは大きく二つのグループに分類される。一つはADM/COFCO/Bunge+Viterraの4社に代表される大豆搾油を中核とする企業。もう一つはWilmar Inter/Golden Agri/Musim Masの3社からなるパーム油生産/販売グループである。前者は、特に穀物メジャーでもあるADM/Bungeの存在が圧倒的でADMは米国、Bunge(Viterra含む)は米国/カナダ/南米をベースに両社とも23年度売上高15兆円を超す巨大企業である。後者は、いずれもシンガポールに本拠を置きインドネシア/マレーシアをベースとしたパーム油の生産/販売に特化している。この3社の中ではWilmar売上高が10兆円を超え突出している。

③ 23年度「世界の製油会社時価総額ランキング」を見ると、1位ADM 5.3兆円/2位COFCO(中国糧油社)4.2兆円/3位Wilmar 2.4兆円/4位Bunge 1.9兆円(為替141円/23年6月末)となっており食品業界全体においても世界のトップ企業であるのは間違いない。各社の大豆搾油量は肝心のADMの詳細が未公開の為、国別生産シェアで類推するしかないがADM500万ト(米国の約40%)、COFCO1,200万ト(中国の約60%)、Bunge900万ト(図中の記載通り)と3社合計26百万トと想定され世界大豆油生産量(62百万ト)の約42%を占めている。パーム油生産量はWilmar以下3社の合計生産量は図中記載数量合計約30百万トとなり世界生産量(79百万ト)の約40%近いシェアと大豆同様この世界に於いては数社による寡占化が大きく進んでいる。この背景は、穀物の世界では生産/流通/集荷/加工/販売と川下に行くほど物流単位の集約化/装置産業化が進み、メジャー資本による市場支配が容易になると想定される。

④ 植物油脂の22/23年度輸出入数量は、約85百万ト(大豆油12/菜種油7/ひまわり油13/パーム油52百万ト)と総生産量2.2億トの約40%が貿易対象となっている。主な流れは①大豆油=BRA/ARG⇒インド/中国/バングラ等、②菜種油=カナダ⇒米国/中国、③ひまわり油=UKR/ロシア⇒インド/中国、④パーム油=インドネシア/マレーシア⇒インド/中国が主流。これらは大半が海上輸送で25千ト以下の専用船/小型タンカー/ケミカル船等の併用或いはコンテナ等が利用されていると思われるが、詳細は別途調査したい。(続く)

米国バンゲがカナダ大手のバイテラの買収手続き中



東南アジアを中心に栽培～製造を垂直展開



中国で合併会社を運営



注1: 各表は網羅的なものではなく、比較可能な最新データに基づく。
 注2: 売上高は便宜的に150円/ドル、20円/人民元、18円/香港ドルにて円換算。
 注3: 売上高は各社公表資料を基に記載、油脂関連の売上高は報告部門により油脂以外の事業が含まれる場合がある。